

Challenger

挑戦者 一第5回一

切磋琢磨して頂へ



左から、佐久間悠真さん、渡辺煉仁さん、郡司珀翔さん、柳沼大綺さん、山野睦生さん



第40回田村富士ロードレース大会(2021年10月17日)



田村高等学校 陸上競技部 2年
TAMURA H.S. Ekiden 特戦隊!!!

【写真右】ふくしま駅伝田村市チーム (2021年第33回大会時)

ふくしま駅伝のそれぞれの思い

睦生：絶対に走りたいと死に物狂いで練習して、改めて駅伝が楽しいと思えた。また挑戦する気持ちが出て、高校の陸上につながる出来事になった。

煉仁：田村市チームのいつものにぎやかな雰囲気が好き。

近所や沿道の人応援もうれしい。

珀翔：仲間と切磋琢磨してきた場所。

悠真：中学生の時は大会当日のメンバーに入らずに悔しい思いもしたが、高校で陸上を続けるきっかけになった。

大綺：監督、コーチをはじめ強くなるために練習を見てくれて感謝している。ふくしま駅伝後の記録会では自己ベストを更新できた。



タスキをつないで絆を結ぶ
田村高校復活へ5人の挑戦

新しいことを始める時、
何かに挑戦する時、

そこにはなんらかのきっかけや背中を押される瞬間があります。目標とする人に一歩でも近づきたいという憧れや、あの時の悔しさだったり、信頼する恩師の薦めや、気心知れた仲間との他愛もない会話だった

り。
今回インタビューに応じてくれた、田村高等学校陸上競技部の5人は、中学時代それぞれ違う部活動に所属、特設駅伝部やふくしま駅伝の練習を通して出会い、高校ではそろって陸上の世界に挑戦することを決めました。

彼らが陸上の道に進むにはどんなきっかけがあったのか。そして、入部から1年、挑戦した先にはどんな世界が待っていたのか。彼らの共通の目標「高校3年時、都大路(全国高等学校駅伝競走大会)出場」に向けて、日々ひたむきに走り続ける彼らの素顔に迫ります。